

## 第4回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

- ◇日 時 2022年11月26日(土) 10:00~12:00  
◇場 所 県立万葉文化館  
◇参加者 【現職教員】村上(平城小)、平井(桜井中)  
【学生】川田(3回生)、後川(3回生)、田中(1回生)  
【万葉文化館】井上、阪口  
【大学教員】加藤、米田、大西 計10名

### ◇内 容 単元構想案の検討②

中学校3年生国語科・音楽科「君待つと 一万葉・古今・新古今」

音楽教育専修3回生 後川りのさん

#### 【授業構想】

万葉集・古今和歌集・新古今和歌集の歌が国語の教科書に載っている

それぞれの特徴を調べさせる → その中で最古の万葉集に目を向けさせる

沫雪のほどろほどろに降りしけば 奈良の都し思ほゆるかも(大伴旅人)

あをによし奈良の都は咲く花の にほふがごとく今盛りなり(小野老)

「あをによし」って何だろう? そこから調べたり考えたりさせたい

奈良にまつわる歌が数多くあることに気づき、歌碑を調べさせたい

フィールドワークで歌碑を見つけ、そこに書かれた歌の意味を考える

自分たちでも歌を作ってみて、そこに音もつけさせたい

学習が終わったときに、短歌や万葉集について身近に感じてほしい



#### 【意見交流】

- ・単元名にある「君待つと」は、新井満さんの歌で万葉文化館でも流れている  
この歌は導入で使えるかも  
文字がない時代に声の文化として始まったのだから、音楽としての万葉集を捉えることから始めてはどうだろうか。
- ・万葉集は歌であると考えたら、この場合国語でというよりは音楽でやった方がいいのではないだろうか
- ・声明(しょうみょう)だって一種の音楽のはず  
楽譜におこしてみると何らかの特徴が見えてくる
- ・「あをによし」という枕詞があれば「奈良」が出てくるという面白さも見つけさせたい
- ・音声言語と文字言語を考えたときに、音声がいかにか大事かということが感じられるといい
- ・自分の地域に佐保川が流れているのなら、川べりに多くの歌碑があるはず  
子どもにとって知っている地名が出てくると一気に興味がわく それらから調べるとよい
- ・子どもにいかにか興味を持たせるかを考えたら、やはり導入の工夫が必要だろう  
いきなり万葉集や古今和歌集と言われたらハードルが高い  
→ ドラマ性がある方がよい

- ・歌の背景を知ること、もしそこに曲をつけるなら短調になるか長調になるかという活動ならきつとおもしろい
- ・「ひろげる」段階での歌作りに関して
  - ゼロベースで歌を作るのは難しい
  - 万葉集の歌をベースにして詩をつける、そして曲をつける
  - 万葉集から一度離れてみてもいい
  - 五音、七音も言葉をできるだけたくさん出させて、それを組み合わせる
  - 誰のために歌を書くのかというところを大事にしたい



この学習は、国語も関連はするが主に音楽で考えていく。

「万葉集を音楽の授業で」というのは面白い試みになるのでは。

※ 次回（第5回）は1月28日（土）10時～ 学生2名の学習指導案の検討